



InterFAXサービス デベロッパーガイド



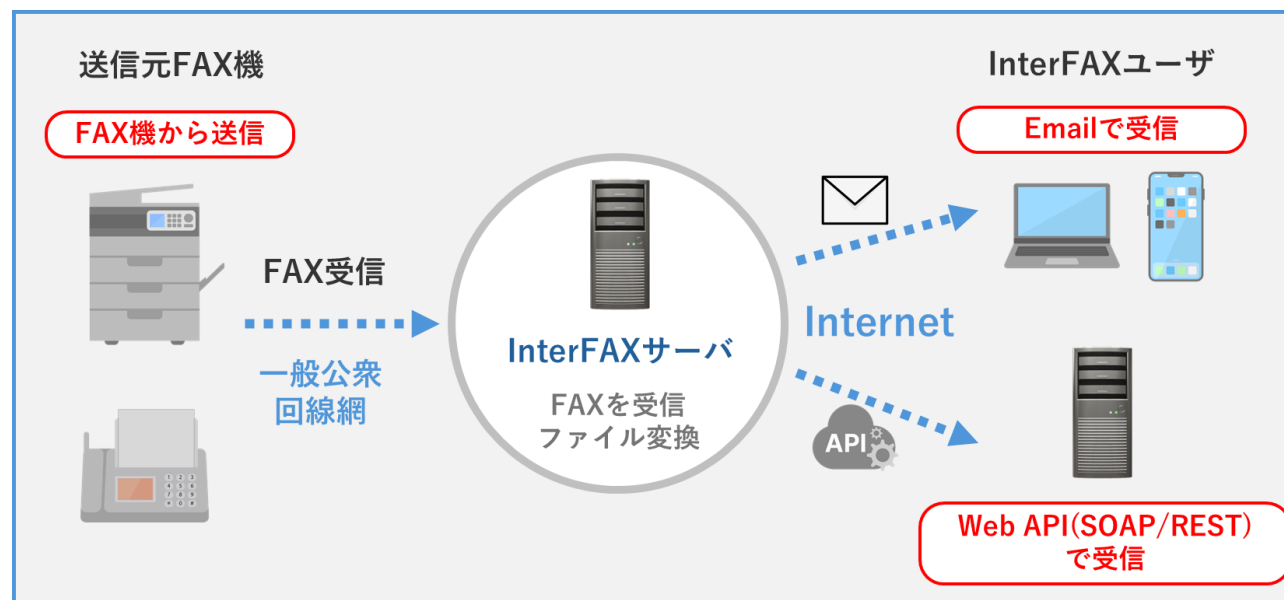
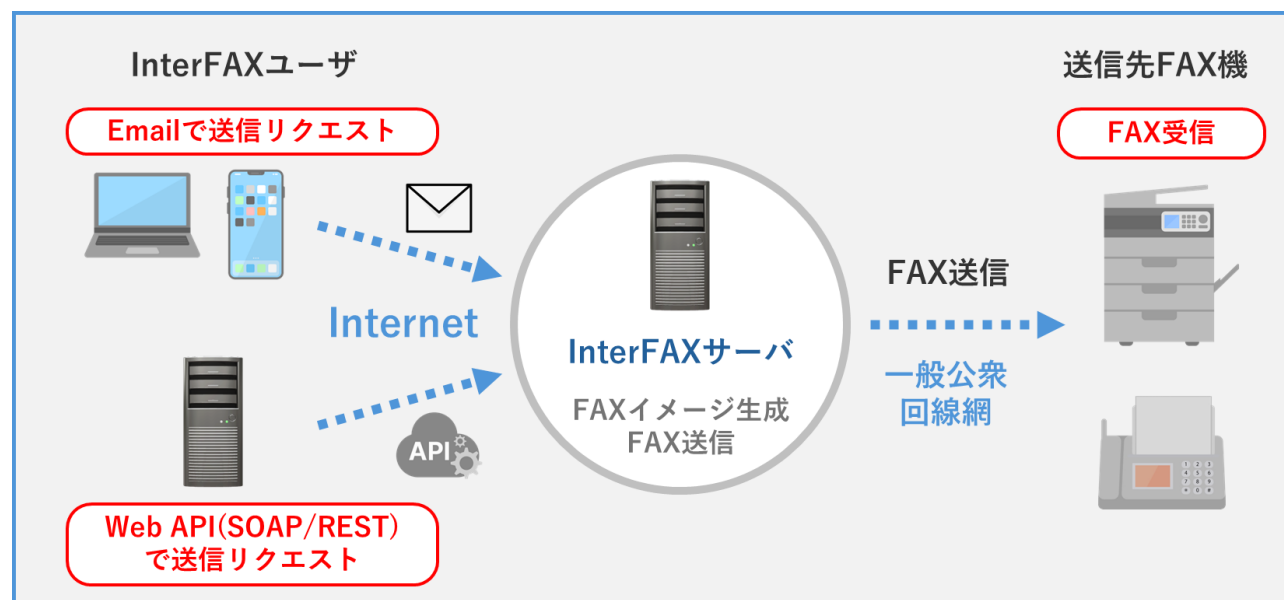
Rev. 02



Licence No.ISMS/0399

* メールソフト
* メールシステム
* Webサービス
(SOAP/REST API)

にて
FAXの送受信ができる
ASPサービス



業務アプリケーションからの自動FAX送受信システムにおいて実績多数

* InterFAXは多くの業務アプリケーションで活用されています

例： アプリケーション内で生成した帳票をPDFやHTMLへ変換後、メールやAPIでFAX送信

例： 宿泊予約等のWebアプリケーションにおいて、お客様がフォームが入力した情報をCGI
経由でFAX送信リクエストメールとして送信し、旅館・ホテル側ではFAXとして受信

例： OCRとの組み合わせで受信したFAX内容を自動データ化（人件費計算や受注処理等）

* 一日、数千件規模のFAX送受信にも対応

* InterFAXの利用で大幅に開発の効率をアップ、導入から保守までコストを軽減

FAXカードやFAXサーバをアプリケーションでコントロールする為には、専用APIでの開発により多大な開発時間とともに、導入コスト、保守経費、等々が必要。

InterFAXを利用すればメールやAPIの開発コストだけでシステム構築が可能に。

ユーザ認証について

InterFAXはメールの送信元アドレスでユーザ認証をおこないますが、メールヘッダ上の“FROM”ではなく、メール送信プロトコルのSMTPの実際の送信元アドレス（MAIL FROM:）で認証します。ヘッダの「From:」アドレスを事前登録しても認証できない場合で、「Return-path:」が存在する場合はそのアドレスが実際の送信元アドレスである可能性があるため「FAX送信サービス利用可能者」として登録してください。

※ 事前にお客様の他のメールアドレスにメール送信してヘッダ内容を確認し、Return-path: が存在すれば Return-path:、なければ From: が認証対象アドレスとご判断ください。

※ InterFAXへ送信したメールが「ユーザ認証不可」の理由でエラーとなった場合、エラーを通知するメールは送信されないため、FAX送信状況を「送信履歴」でご確認ください。
（メール送信後に送信履歴に反映されない場合、何らかの理由でFAX送信リクエストメールがエラーとなっている可能性がございます。）

送信メールの「件名」の活用

送信履歴には、日時（開始・終了）、件名、送信元アドレスおよび送信結果が表示されます。例えば、発注書を大量送信し、エラーが数件発生した際に再送信等の何らかの対応が必要な場合、件名にユニークな記号や番号（発注書番号等）を記載しておくことで、容易に該当するFAX（トランザクション）を特定、確認できます。

※ 特に同一FAX番号へ複数のFAXを送信した場合に特定が容易になり便利です。

メール生成時の注意事項

- ・ **テキストメールの本文は ISO-2022-JP でエンコード**

例) Content-Type: text/plain; charset="ISO-2022-JP"
Content-Transfer-Encoding: 7bit

- ・ **HTMLメールの本文は、ISO-2022-JP、Shift_JIS、UTF-8をサポート**

〔マルチパートメールの場合〕

作成されたメールのContent-typeが「multipart/alternative」の場合、HTML本文とテキスト本文と一緒に作成、送付されます。（多くのメールソフトがこの形式となります）
この形式ではInterFAXはHTML本文のみをFAXします。

〔HTML本文でテキストファイルが添付として作成された場合〕

この場合、InterFAXはHTMLを本文、テキストは添付として扱います。
メール本文をFAXする場合、件名オプションの「/b」（メール本文と添付ファイルの両方を送信する）指定が必要です。

- ・ **添付ファイルは、base64でのエンコード**

例) Content-Transfer-Encoding: base64

セキュリティ機能の活用

InterFAXでは、S/MIMEに対応する電子署名と暗号化機能を提供しています。

- ・ **電子署名**：メールアドレスと電子証明書を照合し、一致しなければメール自体を受け付けられない仕組み。なりすましや改ざんを防ぎ、不正利用を防止します。
- ・ **暗号化**：InterFAX側の電子証明書を取得し、その証明書でFAXリクエストメールを暗号化して送信することで、インターネット上でメールメッセージ（FAX内容）の情報漏洩を防止します。
 - * メールソフトや開発ツールの仕様により、送信メールアドレス単位で電子証明書（デジタルID）が必要となる場合があります。
 - * システムからの送信でS/MIMEの組込が難しい場合、ゲートウェイ型の電子署名、暗号化サーバの利用も効果的です。

加えて、InterFAXでは SMTPS（SMTP over SSL/TLS）にも対応しています。

TLS（port465）またはSTARTTLS（port25）により通信を暗号化してメール送信ができます。

- * お客様ご利用のメールサーバがTLSまたはSTARTTLSに対応している必要があります。

メールの再送信機能

FAXリクエストメール（送信メール）がエラーとなった場合、InterFAX側ではメール自体の受付処理をしていませんので、FAXリクエストメールの再送信処理が必要です。この為、お客様側システムにメールの再送信機能を付加することを推奨します。

メール再送信機能の付加が難しい場合は、メール送信時に「CC:」や「BCC:」にお客様管理のメールアドレスを追加することで、InterFAX宛とあわせお客様側でもメールをバックアップでき、メール送信後も「送信確認」や「再送信」、「お客様のメール送信記録とInterFAXの送信履歴の比較」対応が可能になります。

例： TO: 03-4477-2288@fax.tc
CC: faxbackup@abccompany.co.jp

通知メールについて

FAX送信結果を通知メールで受信し、その内容をシステムで確認する場合、あくまで「メール」として受信、内容をお読みください。

通知メールのフォーマットは、メール本文がUTF-8/base64でエンコードされます。

(Content-Type: text/plain; charset="utf-8")

このため、メールを正しく読むにはbase64でデコードする必要があります。

メールソースを直接読み込みしてもメール本文がbase64でエンコードされているため、FAX送信結果等が正しく読めない可能性があります。

尚、CSVフォーマットを選択された際は、FAX送信時のメール件名がASCII文字のみの場合、通知メールの本文はUS-ASCIIとなります。

(Content-Type: text/plain; charset="us-ascii")

送信履歴の活用

InterFAXサービスでは、管理サイト「アカウント管理Web」を提供しています。

アカウント管理Web内で、FAX送受信履歴の確認が可能です。（履歴はほぼリアルタイムで更新）

送信履歴ページでは、送信FAXイメージをダウンロードして確認することや、FAX再送信が可能です。

また、緊急時には送信をキャンセルすることもできます。

送信履歴には、検索機能もあり、日付、件名、送信先FAX番号、ステータス等で必要な履歴情報を検索し、CSVファイルやXMLファイルでのエクスポートも可能です。

受信FAX転送メールアドレスの複数登録について

一般的に電子メールは成功率100%ではなく、次のような原因でInterFAXからの転送メールがエラーとなる場合があります。

- 1) メールアドレスの間違い
- 2) お客様のメールボックスがフルの場合
- 3) お客様のメール環境に何らかの異常がある場合
- 4) お客様のメールサーバ等のスパム対策で、InterFAXからのメールを迷惑メールと判断する場合

メールがエラーとなる場合は、上記についてご確認ください。

尚、メールが届かない場合（またはエラーになる場合）に備え、バックアップとして他のメールサーバが管理するメールアドレス（別ドメインやプロバイダ、Gmail等のフリーアドレス等）を受信FAX転送メールアドレスとして同時に登録することを推奨します。

バックアップアドレスを登録することで、通常ご利用のアドレスにメールが届かない場合、受信履歴とあわせ、すぐに状況の確認が可能になります。

セキュリティ機能の活用について

InterFAXでは、S/MIMEに対応する電子署名と暗号化機能を提供しています。
受信サービスでは、受信FAX転送メールの暗号化や電子署名付加の機能をご利用いただけます。

- ・暗号化では、メール受信側の電子証明書が必要です。
- ・電子署名は、メール送信側（InterFAX）が電子署名を付加したメールを指定アドレスへ送信します。

受信履歴の活用

InterFAXでは、管理サイト「アカウント管理Web」を提供しており、FAX受信履歴の確認が可能です。
履歴はほぼリアルタイムで更新されます。

InterFAXでは、FAX受信後にメールでFAXイメージファイルを転送しますが、メールがエラーとなった場合でも、受信履歴にてFAXイメージ（TIFFまたはPDF）をダウンロードすることが可能です。
このため、受信履歴は定期的にご確認いただくことを推奨します。

FAXイメージのファイル名は、受信履歴からダウンロードしたものと転送メールに添付されるものと異なります。

- ・受信履歴から取得したファイル名： InterFAXで管理されたユニークな番号（受信毎に固有）
- ・受信転送メールに添付のファイル名： FAX受信するサーバで仮付与。
※ 複数の受信用サーバでそれぞれ付与するため、ファイル名が同一になる場合があります。
ファイルを保存する場合、お客様管理用のファイル名に変更されることを推奨します。

InterFAXサービスでは、メールでの利用に加え、**Webサービス (SOAP/REST API)** によるFAX送受信が可能です。（API利用にあたり追加料金はありません。）

Webサービスはメールと違いリアルタイムトランザクションとなり、送信ステータスや送受信履歴をリアルタイムで取得することができます。

例えば、FAX送信後に定期的にステータスを確認し、エラーの場合は 10分後に再送信をする等、一連の業務を自動化し効率的なFAX送受信アプリケーションを構築することができます。

また、開発言語を選ばず、**Java、.NET、Perl、PHP、C#等** お客様の開発環境にてご利用いただけます。

Webサービスでは、SSLによるセキュア環境でご利用いただけます。

単一FAX送信

Send Fax で複数ドキュメント送信、日時指定、CSID、FAXモードや件名等のパラメータを指定してFAX送信。リクエストが成功するとTransactionID（トランザクションID）を返し、後からステータスやイメージ取得が可能です。リクエストが失敗した場合はWebサービス戻り値が返されます。

同報FAX送信

Send Batch で複数送信先へ同内容のFAXを同報送信可能。

FAX送信ステータスの入手

FAXリクエストのステータスを状況別に検索するためのリファレンスを用意。一度のリクエストで複数トランザクションのステータス取得も可能。

単一FAX： **Get Fax List**、**Get Completed Fax List**、**Get Fax Record**

同報FAX： **Get Batch List**、**Get Batch Record**、**Get Batch Child Faxes**

FAX送信イメージの取得

Get Fax Image、**Get Batch Image** で送信イメージ（TIFF形式）の取得が可能。

※ G3 TIFF形式で、複数ページでも1つのファイルとなります。

再送信

Resend Fax、**Resend Batch** で再送信が可能。

FAX送信サービスリファレンス（通常送信）

Send Fax	1送信先へFAX送信する。
Get Fax List	直近の送信FAXリスト（履歴）の取得。（同報送信は除く）
Get Completed Fax List	リクエスト済から送信完了したFAXの詳細を取得。
Get Fax Record	過去に送信したFAX情報の取得。（現在のステータスを含む）
Get Fax Image	送信FAXイメージの取得。（TIFFファイル）
Cancel Fax	処理中の送信トランザクションをキャンセル。 （送信中のトランザクションは削除不可）
Resend Fax	コンテンツを再アップロードすることなく、過去に送信したFAXの再送履歴から送信をおこなう。
Hide Fax	クエリのリストからFAX履歴を非表示にする。 （非表示にしたトランザクションは、再度表示はできません）

FAX送信サービスリファレンス（同報送信）

Send Batch	複数送信先へ同報FAX送信する。
Get Batch List	同報送信のリスト取得。
Get Batch Record	送信完了を含む過去に送信した同報送信のFAX情報を取得。
Get Batch Child Faxes	同報送信の個々のトランザクション情報の取得。
Get Batch Image	同報送信のFAXイメージ取得。（TIFFファイル）
Cancel Batch	送信中の同報FAXをキャンセル。
Resend Batch	同報送信の再送信。 （通常はエラー分のみ再送信をおこないます）
Hide Batch	同報送信を非表示にする。 （同報送信した個々のFAX履歴も非表示になります）

FAX送信サービスリファレンス（送信ファイルのアップロード）

Create

ファイルアップロードセッションの作成。

Upload chunk

作成したセッションにファイルをアップロード。

Get list

利用可能なアップロードドキュメントのリストを取得。

Get status

特定のドキュメントアップロードの現在のステータス取得。

Cancel

ドキュメントアップロードの中止、または以前のアップロードを削除。

その他

Search fax list

送信FAXの検索。

受信FAXリストの取得

GetList をコールして受信FAXリストを取得できます。
また、受信日時や発信者番号等、単一FAXのメタデータを取得したい場合は
Get Record でデータ取得します。

受信FAXイメージの取得

FAX受信があった場合は、**Get Image** を使用してFAXイメージデータを取得します。

受信メッセージを既読にマークする

Mark を使用して受信FAXのステータスを「未読」から「既読」へ、また逆にすることもできます。

GetList

受信FAXリストの取得。

Get Record

単一受信FAXのメタデータ（受信時間、発信者番号等）の取得。

Get Image

受信FAXイメージの取得。

Get Forwarding Emails

受信FAXが転送されたメールアドレスのリストを取得するメソッド。メールの送信ステータス（成功、失敗）を含みます。

Mark

受信FAXに「既読」マークを付加。

Resend

受信FAX転送メールの再送信。

クイックFAX送信

シンプルにFAX送信するためのテキスト (US-ASCII) 送信する **SendCharFax** と、バイナリファイル (.DOC、.XLS、PDF、HTML等) を送信する **SendFax** メソッドを用意、最小限のパラメータでFAX送信が可能。(ファイル数1つ、宛先1ヶ所限定。)
リクエストが成功するとTransactionID (トランザクションID) を返し、後からステータスやイメージ取得が可能です。リクエストが失敗した場合はWebサービス戻り値が返されます。

高度な機能を利用したFAX送信

SendfaxEx_2 にて拡張性のある高度なFAX送信機能を利用可能。
複数ドキュメント送信、複数宛先への送信、日時指定、CSIDやSubjectの指定が可能。

送信FAXステータスの入手

FAXリクエストのステータスを状況別に検索する **FaxStatus** や **FaxQuery**、**FaxQuery2** メソッドを用意。一度のリクエストで複数トランザクションのステータス取得が可能。

送信FAXイメージの取得

GetFaxImage にて送信FAXイメージ (TIFF形式) の取得が可能。
※ G3 TIFF形式で、複数ページでも1つのファイルとなります。

再送信

Resend Faxにて再送信が可能。

Send Char Fax	ASCIIテキストをFAX送信するメソッド。
Send Fax	シンプルにファイルをFAX送信できるメソッド。
SendfaxEx_2	FAX送信時の詳細設定が可能なメソッド。
Chunk Upload	容量の大きいファイルをアップロードするメソッド。
Fax Status	最小限の情報に限定し、素早くFAX送信処理状況を取得できるメソッド。
Fax Query	"Verb"で指定した送信トランザクションの詳細情報を取得するメソッド。
Fax Query2	高度かつ柔軟に送信トランザクションの詳細情報を取得するメソッド。
Get Fax Image	指定トランザクションのFAXイメージ（TIFF）を取得するメソッド。
Resend Fax	過去に送信したFAXを再送するメソッド。

受信FAXリストの取得

受信FAXリストは **GetList** メソッドをコールして取得できます。

GetList のリクエストはリストタイプ（全て、または未読）と MaxItem（リスト中のアイテムの最大数は100まで）と共に提示されます。

リストは MessageItems からなり、クライアントからのリファレンスがついたアレーのフォーマットになります。

受信FAX画像の取得

FAX受信があった場合、**GetImageChunk** を使用してFAXイメージを取得します。

GetImageChunk リクエストはMessageID、画像が入るバッファ、バッファサイズ（受信したいチャンクサイズ）、と画像がどのバイトからスタートするかの情報と共に提示されます。パラメータで「既読」を設定した場合、FAXイメージ取得後に既読がマークされます。

受信メッセージを既読にマークする

受信メッセージのステータスを「未読」から「既読」へ、またその反対にもできます。

受信FAXイメージの取得時に「既読」にマークすることも出来ませんが、**MarkMessage** を使用して後から「既読」にすることもできます。

GetList

受信FAXのリストを取得するメソッド。

GetList2

受信FAXのリストをより柔軟、詳細に取得するメソッド。

GetImageChunk

GetListで取得した情報（MessageIDおよびMessageSize）にて受信FAXのイメージを取得するメソッド。

GetImageChunkEx2

受信FAXのイメージとそのファイル形式を取得するメソッド。

MarkMessage

受信FAXに「既読」マークを付加するメソッド。
既読となった受信FAXトランザクションはGetListでは取得できません。

GetInboundLogEmails

受信FAXが転送されたメールアドレスのリストを取得するメソッド。メールの送信ステータス（成功、失敗）を含みます。

ResendInboundToEmail

受信FAXを指定したメールアドレスへ再送信するメソッド。



InterFAXサービス : <https://www.interfax.jp/>

デベロッパーガイド : <https://www.interfax.jp/developer/>

よくある質問 : <https://www.interfax.jp/faq/>

トライアル : <https://www.interfax.jp/trial/>

doit 株式会社ドゥイット InterFAXサービス担当

Email: info@interfax.jp

TEL: 03-5457-1553 FAX: 03-4477-2288

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-12-1 渋谷マークシティウエスト 14階